

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> 「チーム岩野田」として、校長の指導の下、特別支援教育を核とした教育活動を推進する。 「なぜ」「どうして」を大切にしながら主体的で対話的な学びの実現に向けた授業改善に取り組む。 ICTを効果的に活用した学びの場を充実させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 教職員一人ひとりもつ異なる専門性や知識、スキルを同僚に学びながら、指導体制の充実に努めることができた。 総合的な学習の時間を中心に課題意識をもたせ、86%の児童が「自分なりのなぜだろう」を大切に学習ができた。 学習や生活の場でロイロノートやスターサブリ、ここタンなどICTを効果的に活用することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT、体験や実験等、物を使った授業が取り入れられており、考える力がついている。 主体的で対話的な学びが実現できるように授業が工夫されている。 子どもたちが健やかに育っている。 家庭学習法として「け(計画)て(テスト)ぶ(分析)れ(練習)」を検討してほしい。 暗記ではなく過程や理由を追求する授業を。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員もつ専門性や知識、スキルを同僚同士が学び合いながら、「チーム岩野田」としての指導体制をさらに充実させていきたい。 多様性を認め合い、新しい時代の学びにつながる指導の工夫をしていきたい。 ICTを効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」に向けた授業改善に取り組んでいきたい。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「ぎふMIRAI's」を視点に、岩野田校区の「人・もの・こと」を学びを、地域人材、地域資源を活用することで、コミュニティ・スクールの機能の充実を図る。 校区の特性を生かした幼保小中高大学との連携を図った取り組みを推進する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 土曜日等の教育活動を中心に、岩野田校区の「人・もの・こと」を学びを、地域人材、地域資源を活用し、学びを進めることができた。 校区の幼保の年長児を招き、1年生との交流会を実施できた。また、中学校とはあいさつ運動を一緒にを行い、岐阜城北高校生には読み聞かせをしてもらったりプレゼンの作り方を教えてもらったりして、連携を図った取り組みを進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域一丸となり取り組んでいると思う。 高校生を含めた地域の方を講師に招いた教育活動など、地域人材を積極的に活用した取組が行われている。 様々な立場、職業の方との交流がもたれていることが素晴らしい。 岩野田の歴史や文化、自然についても学んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 岩野田校区の地域人材、地域資源を活用し、学びを進めるためにも、コミュニティ・スクールの機能の充実をさらに図っていきたい。 校区の特性を生かした幼保小中高大学との連携を図った取り組みをより一層充実させていきたい。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が笑顔で、元気に子どもたちの前に立てるよう、業務量や時間外勤務時間の適切な管理を行う。 教職員自身も自己有用感がもてるような「働きがい」を創出するとともに、職員同士のコミュニケーションを図る。 タブレットなどICT機器(ソフト)を活用した教師の働き方改革を進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 正確な勤務時刻の把握に努め、各自がタイムマネジメントしながら勤務することを心がけた。 教職員が自己の役割を理解したり、同僚との協働を通して、「チーム」の一員としての自覚を高めることで、自己有用感につながった。 ICT活用研修を継続して行うことで、スキルを磨き、新しい教育手法や技術の習得をし、実際の指導に役立たせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 笑顔で対応されている教職員が多い。 親と同じように担任の影響は大きい。 各種取組を可能な範囲で精選し、無理のない教育活動を進めてほしい。 6年生と一人暮らしの高齢者の集いに参加しましたが、優しさ、温かさがいっぱいでした。 教職員の健康、やりがい等「Well-being」を考えて頂きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと向き合い、あたたかさや働きがいのある学校にしていきたいためにも、時間外勤務時間の減少を目指しつつ、業務量や内容についてさらなる見直しを行ってほしい。 職員間の風通しを良くし、互いにコミュニケーションをとりながら、「働きがい」が創出できるようにする。 ICT機器の効果的な活用をさらに進めていけるようにする。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 様々な学校事故の「未然防止」に努める。 職員が多種多様な事態への危機管理意識を高くもつよう努める。 各種マニュアルの恒常的な見直しを行う。 家庭、地域、関係諸機関と連携し、地域ぐるみで児童を見守る体制をつくる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 常にアンテナを高く広く張り、児童の様子を観察し、寄り添った指導を心がけることで、さまざまな学校事故に対して未然防止に努めることができた。 学校アンケートで、90.2%の保護者が、97.2%の児童が「命の大切さや社会のルールを守って生活している。」と回答している。 感染症予防・指導を継続して行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域を含めて、考える必要がある。 事故もそうですが、犯罪が増えているので難しいですが、少なくとも単独で行動しないという指導が必要だと感じる。 今回の能登半島地震を教訓として、児童に自然災害に対する対策の教育を望みます。 感染症に対する基本防御と手洗いなどの継続をしていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校事故の未然防止や感染症予防などに対して、職員が危機管理意識を常に高くもち、児童の安全・安心が確保できるように努める。 家庭、地域、関係諸機関と連携をさらに密にし、児童を見守る体制作りを心掛ける。 自然災害に対する意識を高め、「自分の命は自分で守る」ことができるような指導を継続していく。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の適切な管理に努める。 施設設備などの定期点検や適切な管理に努める。 学校納入金の適切な取り扱いと管理を複数で行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 管理簿を活用したり、複数の目で確認し合ったりするなど適切な管理ができるように努めている。 毎月の安全点検結果を校務員とも共有し、早急な対応を心がけるとともに、必要に応じて要望書を提出し、安全な環境で学べるようにしている。 学校納入金の管理を複数で行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 古くなった施設・設備、市への要望で対応していただくとともに、地域でできることは申し付けてください。 子どもたちにとって本はとても身近であるため、図書館の環境整備はとても良いと感じました。 財源の適切、有効な活用をしていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙ベースだけでなく、デジタルデータの個人情報についても、職員一人一人が意識を高くもって適切な管理ができるようにしていく。 子ども達が安全に学校生活が送れるよう、施設の点検・整備など、適切な管理に努めていく。 学校納入金の適切な取り扱いをに引き続き努めていく。